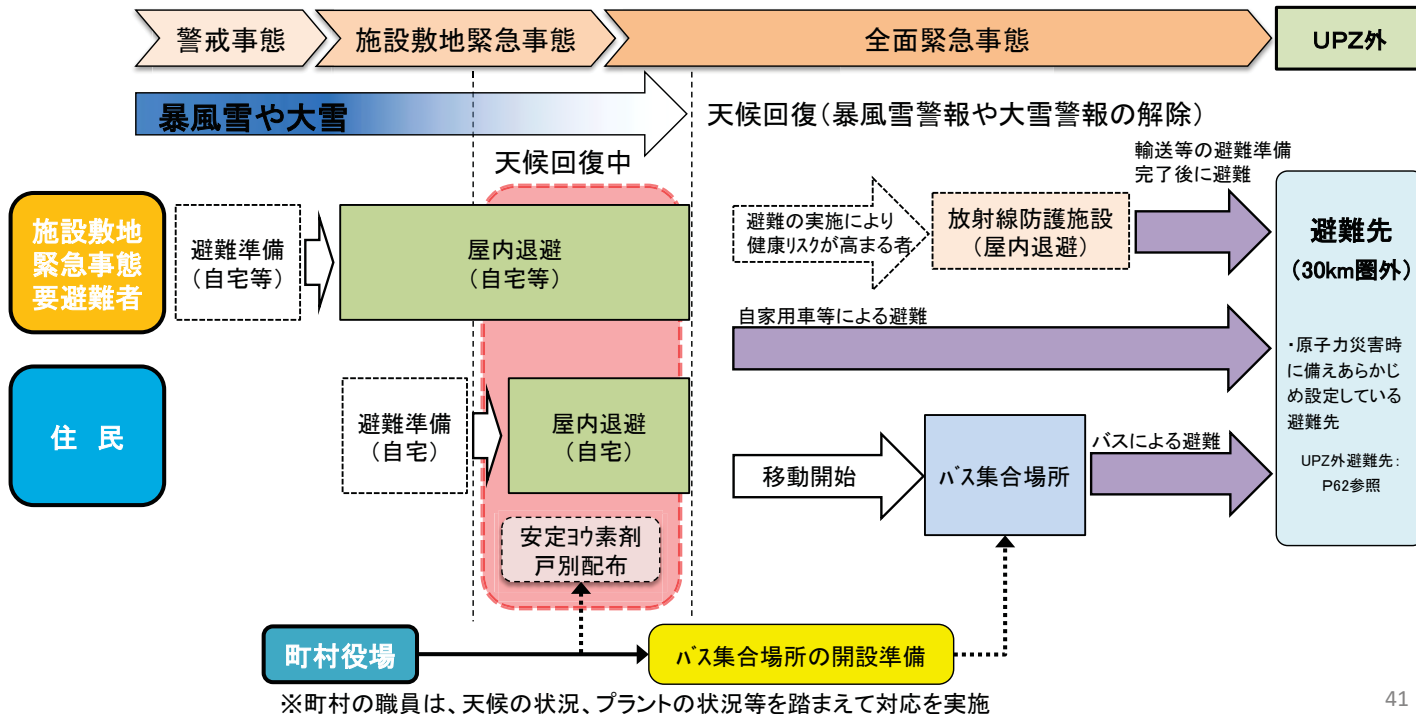


- ▶ 自然災害との複合災害時において、自然災害による差し迫った危険がある場合は住民の生命の安全確保を優先して対応。
- ▶ PAZ内の施設敷地緊急事態要避難者及び住民は、天候が回復するまで屋内退避を優先し、天候回復後は道路状況、プラントの状況等を確認後、避難を実施。なお、避難の実施により健康リスクが高まる者は、輸送等の避難準備が整うまで近傍の放射線防護施設へ屋内退避を実施。

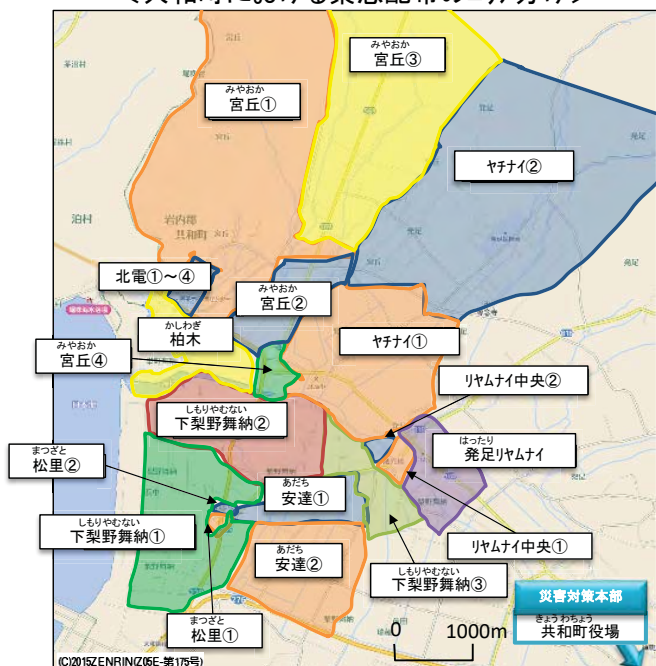
## <全面緊急事態で天候が回復した場合の例>



# PAZ内における暴風雪や大雪時の安定ヨウ素剤の配布体制

- ▶ 避難の際に安定ヨウ素剤の緊急配布を行う共和町では、暴風雪や大雪のため避難行動の開始が遅れるような事態となった場合には、施設敷地緊急事態等の早い段階で、PAZ内において、町職員等42人が2人1組となり、安定ヨウ素剤の戸別配布を実施し、住民の予防服用体制を確保。
- ▶ 暴風雪や大雪時に全面緊急事態に至った場合、住民は町村の指示に従い安定ヨウ素剤を服用。

## <共和町における緊急配布のエリア分け>



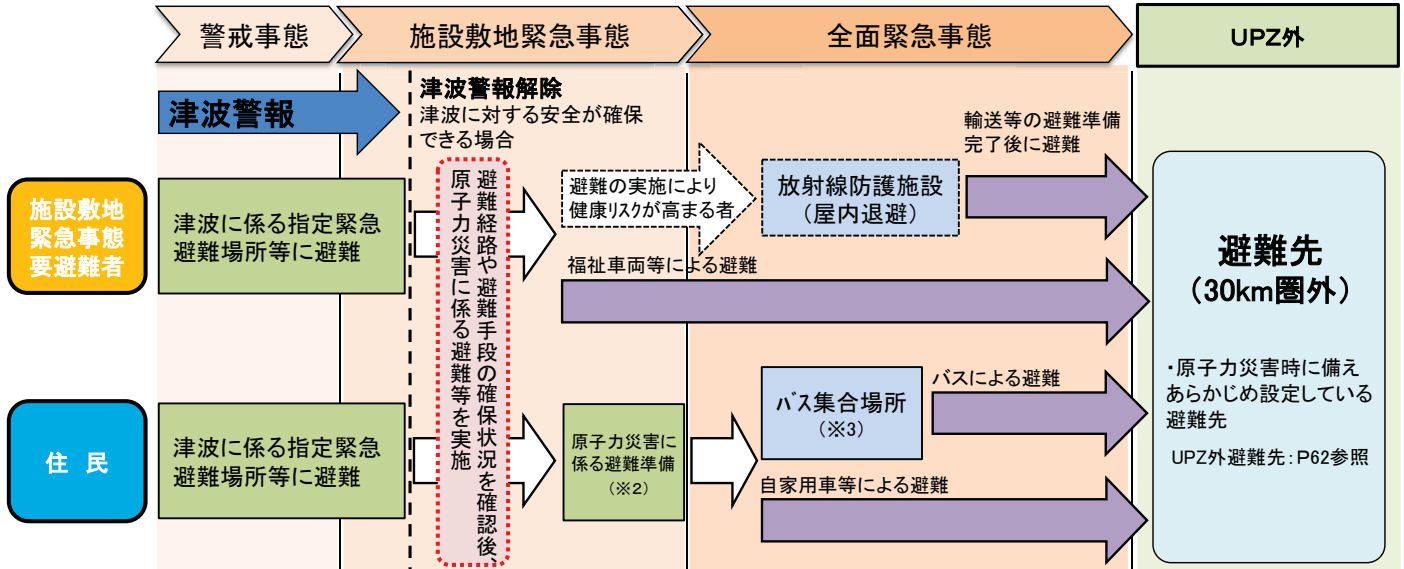
緊急配布地区	配布対象世帯及び人数	緊急配布地区	配布対象世帯及び人数
みやおか 宮丘地区①	16世帯36人	ほったり 糞足リヤムナイ地区	23世帯63人
みやおか 宮丘地区②	25世帯64人	しもりやむない 下梨野舞納地区①	21世帯39人
みやおか 宮丘地区③	12世帯44人	しもりやむない 下梨野舞納地区②	22世帯55人
みやおか 宮丘地区④	12世帯21人	しもりやむない 下梨野舞納地区③	21世帯52人
かしわぎ 柏木地区	23世帯39人	あたち 安達地区①	23世帯39人
ヤチナイ地区①	26世帯65人	あたち 安達地区②	26世帯65人
ヤチナイ地区②	23世帯88人	まつざと 松里地区①	19世帯35人
リヤムナイ中央地区①	26世帯63人	まつざと 松里地区②	21世帯44人
リヤムナイ中央地区②	19世帯37人	北電社宅地区①~④	170世帯273人

※ 数字は现阶段で共和町が把握している暫定値

- ※ 緊急配布では、必要に応じて町村職員が衛星携帯電話等により、保健所等の医師に確認を実施。
- ※ 泊村においても事前配布を受けていないPAZ内の住民に対し、村職員20人が2人1組となり戸別配布を実施。
- ※ 安定ヨウ素剤の服用は従たる防護措置であり、状況によっては屋内退避又は避難を優先する必要がある。

- ▶ 津波との複合災害時(津波警報または大津波警報の発表時)における避難行動では、住民の生命の安全確保を優先し、津波による人命へのリスクを回避するため、津波に係る指定緊急避難場所等の安全が確保できる場所に避難を実施。
- ▶ その後、施設敷地緊急事態や全面緊急事態に至った場合であっても、津波に係る避難指示が発令されている場合には、原子力災害に対する避難行動よりも津波に対する避難行動を優先。
- ▶ 津波警報解除等津波に対する安全が確保できる場合(※1)は、避難経路、避難手段、プラントの状況等を確認し、原子力災害時に備えあらかじめ設定している避難先へ避難を実施。なお、避難の実施により健康リスクが高まる者は、輸送等の避難準備が整うまで近傍の放射線防護施設へ屋内退避を実施。

## <施設敷地緊急事態で津波警報が解除された場合の例>



- ※1 津波警報等の発表中であっても、津波の影響を受けずに避難等の実施が可能であれば、原子力災害に係る避難等を実施。
- ※2 自宅が津波による被害を受けていない住民は、自宅にて原子力災害に係る避難準備を実施し、その他の住民は津波に係る指定緊急避難場所等で原子力災害に係る避難準備を実施。
- ※3 バス集合場所は、津波に係る指定緊急避難場所等にもなっている場合がある。

# PAZ内における津波との複合災害時の対応

- ▶ 泊村(PAZ内)における原子力災害に係るバス集合場所10箇所のうち7箇所(①照岸・糸泊地区集会所、③泊村アイセンター、⑤泊村公民館、⑥茅沼地区集会所、⑦泊村総合福祉センター、⑧泊中学校、⑩堀株地区集会所)は津波に係る指定緊急避難場所等であり、津波との複合災害時も利用可能。残りの3箇所(②泊地区集会所、④臼別地区集会所、⑨渋井地区集会所)の周辺住民はそれぞれの津波避難に係る指定緊急避難場所に避難するとともに、当該津波に係る避難場所をバス集合場所としても利用。その際、上記の周辺住民を受け入れても十分に収容可能。
- ▶ 共和町(PAZ内)における原子力災害に係るバス集合場所7箇所は、すべて津波に係る指定緊急避難場所となっており、津波との複合災害時も利用可能。

## <泊村(PAZ内)の津波に係る指定緊急避難場所等及び原子力災害に係るバス集合場所>



津波に係る指定緊急避難場所等(※1)(海拔、収容可能人数)	原子力災害に係るバス集合場所
① 照岸・糸泊地区集会所(25.2m、143人)	① 照岸・糸泊地区集会所
③ 泊村アイセンター(27.5m、592人) ・原子力災害時のバス集合場所となっている②泊地区集会所(海拔5.6m)の周辺住民は泊村アイセンターへ避難	③ 泊村アイセンター
⑤ 泊村公民館(25.3m、344人) ・原子力災害時のバス集合場所となっている④臼別地区集会所(海拔9.2m)の周辺住民は泊村公民館へ避難	⑤ 泊村公民館
⑥ 茅沼地区集会所(※2)(9.8m、221人)	⑥ 茅沼地区集会所
⑦ 泊村総合福祉センター(20.2m、620人)	⑦ 泊村総合福祉センター
⑦ むつみ荘(26.6m、187人)	
⑧ 泊中学校(27.7m、1,900人) ・原子力災害時のバス集合場所となっている⑨渋井地区集会所(海拔4.7m)の周辺住民は泊中学校へ避難	⑧ 泊中学校
⑩ 堀株地区集会所(※2)(7.3m、172人)	
⑪ 教員住宅裏山(20.4m)	⑩ 堀株地区集会所
⑫ 電神橋上(27.2m)	
<b>合計:11箇所(4,432人)</b>	<b>合計:7箇所</b>

- (※1) 津波警報等発表時、住民等は、近隣の津波に係る指定緊急避難場所等へ速やかに避難。
- (※2) 茅沼地区集会所と堀株地区集会所は、今後、津波に係る指定緊急避難場所へ指定予定。

## 5. PAZ内の全面緊急事態における対応

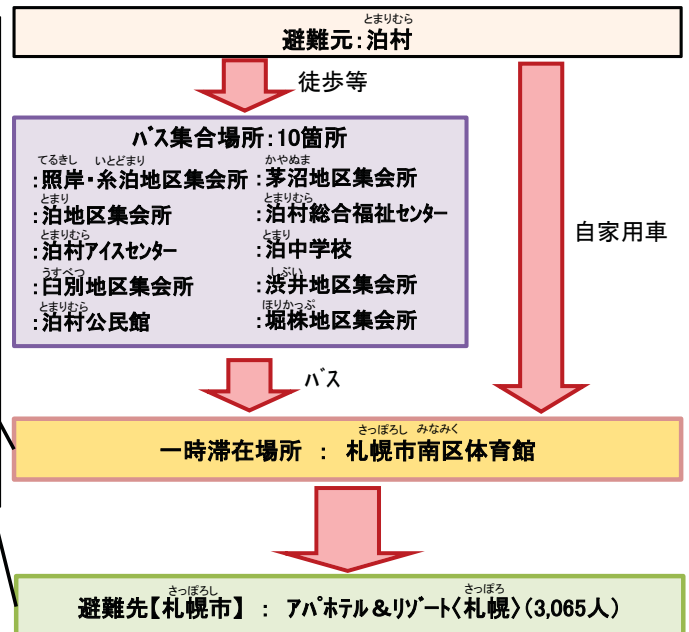
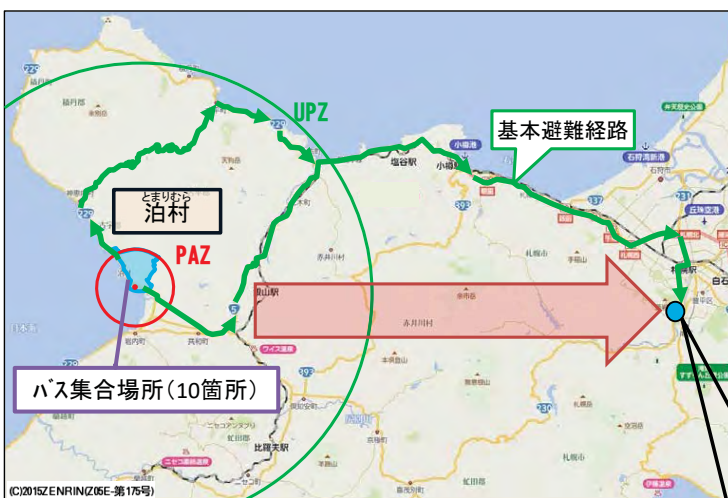
### ＜対応のポイント＞

1. バス避難に必要となる輸送能力を確保し、避難を開始すること。
2. 避難先の受入れ体制を整えること。
3. 安定ヨウ素剤の服用等を指示し、避難を開始すること。

45

### とまりむら 泊村におけるPAZ内の住民の避難先及び避難住民数

- ▶ 泊村におけるPAZ内の住民については、自家用車で避難する住民は、自家用車により札幌市の一時滞在場所（札幌市南区体育館）を経由し、避難先（アパホテル&リゾート〈札幌〉）に避難。
- ▶ バスにより避難する住民は、徒歩等で各バス集合場所に集合し、バスで一時滞在場所を経由し、避難先に避難。



PAZ内地域	避難対象者	バス避難者数	自家用車避難者数
とまりむら 泊村	1,091人	449人	642人

( )は収容可能人数

※1 避難先については、啓発資料を全戸配布するとともに、訓練を通じて住民に周知  
 ※2 避難対象者数は、PAZ内住民の合計数から施設敷地緊急事態で避難する住民を引いた数字である

46